

下山 実さん、直子さん 静岡県長泉町



柿の生育状態を確認する下山さん夫妻

【静岡支局】「子を育てるのと同じように丁寧な手間暇をかけて、箱を開けた時の笑顔を想像しながら、期待に応える柿作りを」と話すのは、下山実さん(43)、直子さん(47)夫妻。長泉町で柿146アール、アーティチョーク12アールを栽培する。

海外留学などを経て、20年ほど前に両親と共に農業を始めた直子さん。建築に携わっていた実さんと結婚後は、夫

婦で相談し合い切り盛りしている。

下山さん夫妻が栽培する四ツ溝柿は、四つの溝があり、歯触りが良く、上品な甘さが特徴の渋柿。長泉町が原産地といわれる。傷が付かないよう丁寧に収穫し、天候を見極め、3日ほどかけて渋抜きを行うなど手間を惜しまない。地元で流通するほか、予約販売も行い、10月下旬から2月中旬にかけて出荷する。

近年の気候変動にも安心

2022年から収入保険に加入する下山さん夫妻。10年3月、季節外れの降雪で芽が凍り、柿が全滅する被害があった。19年には降ひょう被害、その後も各地で発生する自然災害を目の当たりにした。柿は静岡県で果樹共済の対象ではなく、降雪被害当時は加入できる農業の保険がなかったが、19年に収入保険がスタートした。

「被害があると立て直すのに数年かかる。近年の気候変動も心配。収入保険のおかげで安心して農業を続けられる」と実さん。栽培に注力するため、取捨選択しながら新たな試みも行う。柿のほか、直子さんが留学時に知った大形アザミのつぼみを食用とした野菜「アーティチョーク」を栽培。写真共有アプリ「インスタグラム」で調理法を発信する。

直子さんは「夫婦で営農することの可能性が広がった。農業を通じて、地域の子供が、ここに生まれて良かったと思える地域にしたい」と笑顔で話す。

(向井)

収入保険

あらゆるリスクに対応

補償される品目なかった農業者が支持

自然災害や価格低下など農業経営には、さまざまなリスクが付き物です。全ての農産物を対象に収入を補填できる収入保険は、これまでの制度では十分な補償がなかった品目を栽培する農業者からも多くの支

持を集めています。2023年9月末現在、加入者は全国で8万6千経営体を超えました。東海地方では6100を超える経営体加入しています。安心して農業経営に取り組むために、収入保険に加入しましょう。